

# 知事記者会見の概要

日 時：令和5年4月19日(水) 10:01～10:38

場 所：502会議室

出席記者：12名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 代表質問

- (1) 地方議会議員の担い手不足について

### フリー質問

- (1) 阪神タイガース中野拓夢選手への「山形県スポーツ栄光賞」の授与について
- (2) 応援演説中の岸田首相襲撃事件について
- (3) 選挙活動中の警備体制について
- (4) 保育料の無償化について
- (5) 教職員の不祥事について
- (6) 県における対話型AIの活用について
- (7) インバウンド対応について
- (8) 新型コロナの影響による観光業における人手不足について
- (9) ポストコロナにおいて県が重点を置く取組みについて

<幹事社：毎日・産経・YBC>

## ☆報告事項

### 知事

皆さん、おはようございます。

まずですね、天童市出身で阪神タイガース中野拓夢選手の第5回WBCでの活躍は、多くの県民の皆さんに勇気と感動を届け、子どもたちに夢と希望をもたらしてくれました。この活躍を讃えて、このたび、中野選手に対して「山形県スポーツ栄光賞」を授与することといたしました。

中野選手からは、喜びのコメントが届いておりますので、後ほど、担当からご紹介させていただきます。中野選手の今後ますますのご活躍を期待しております。

なお、受賞につきましては、現在シーズン中ということもありまして、これから調整をまいります。

それから、道路ですけど、路肩の崩落により2月20日から全面通行止めを行っている大江町左沢地内の主要地方道天童大江線につきましては、4月8日から応急復旧工事に着手したところですが、工事は順調でありまして、4月26日水曜日の午後3時から片側1車線での通行を再開できる見込みとなりましたのでご報告をいたします。

それから、さくらんぼ「やまがた紅王」は、今、こんな状況でございます（補足：知事が、現在の「やまがた紅王」の花の様子を写した写真フリップを提示）。これ、園芸研究所の「やまがた紅王」なんですけれども、本当に白い花がびっしりと付いておりまして、見事であります。霜の害の対策もしっかり行っておりますので、低温の影響もなく綺麗に咲き揃っているところであります。

花が咲いている今の時期が実を成らせるために最も重要でありますので、人工受粉などをしっかり行っていただいて、大きな実をつけてもらいたいというふうに思っております。私からは以上です。

## ☆代表質問

### 記者

おはようございます。毎日新聞の熊田です。

私からは、統一地方選についてのご質問を1件させていただきます。今月の9日に県議選の投開票が終わりまして、今週の日曜日に市長選と市議選、それから昨日、村長選と町村議選の告示がなされたところですが、これまでの県内の統一地方選の選挙状況で言いますと、県議選に関しては、全17選挙区の9つの選挙区で無投票での当選が決まられたと、後半戦に関してもいくつかの自治体の首長選、それから議会選で無投票が出ております。

全国的な傾向で、被選挙人のなり手不足っていうのが問題というふうに言われていますけれども、県内でも、特に減少面で見ると、統一地方選以外の選挙も含めて、首長選とあと県議会選、それから各自治体の議員選、3つ全てがこの1年、無投票で行われているという

ふうな自治体も出ているような状況です。もちろん、公選法上ですね、無投票当選というのは、法規上適正なものではありますが、有権者の立場で見ると、投票ができない選挙が続いている、先週、投票率の話も出ましたけれども、有権者の方がそれぞれ直近の選挙において、投票できないっていうのは問題っていう表現が当たるのかなというふうに思います。

県の施策だけじゃなくて、いろんなところでこの問題については長いスパンで、軽々に即効性のある結論が出るような問題ではないと思いますけれども、諸々踏まえてですね、知事の、このなり手不足、それから有権者が投票できない事態が続いていることについてのお考えをお伺いしたいと思います。

知事

はい、ではお答え申し上げます。

このたびの県議会議員選挙では、17の選挙区のうち9つが無投票となりました。無投票で当選された方は、議員定数43名に対して13名となっております。

前回の県議会議員選挙と比べますと、無投票の選挙区数というのは変わってないのですが、無投票当選者数は4名減少しております。

また、4月16日・18日にそれぞれ告示された県内の市町村長選挙及び市議会・町村議会議員選挙につきましては、17の選挙のうち、5つが無投票となっており、前回と比べて2つ増加したところであります。

全国の状況を見ましても、無投票となる選挙区が都市部にも生じるなど、人口減少の進行などを背景に地方議会議員のなり手不足が深刻化しているといった指摘もみられます。

そのような中、国全体として、議員の兼業禁止の規制緩和に係る法改正や、地方議会議員のなり手確保に向けて各議会の主体的な取組みを促す地方制度調査会の答申がなされたものと承知をしております。

住民ニーズや地域課題が多様化・複雑化する中にありまして、議会は、住民の多様な意見を反映しながら合意形成を行う場として、これまで以上にその役割が重要になっていると思います。それぞれの議会において、幅広い検討を進めていただきたいというふうに思っております。

なり手不足ということも大変深刻になっていくのではないかとというふうに心配される場所でもあります。市町村のお話をお聞きしながらでありますけれども、先行事例とか、何か対策といったようなことが、どういうことができるのかというようなことを市町村と県と一緒に考えていければいいかなというふうに思っているところでございます。

本当にいろんな視点での研究とか調査とか、そういったことが必要と言いますか、重要などころではないかなと思って、一つの自治体でやるという、そこを尊重するということが大事でありますけれども、また、広域的に課題となっていくようなところもあるかと思われまので、みんな力を合わせて勉強会とか、そういったこともやっていくのが、一つ

の方法としてはあるのかなというふうに思っております。

記者

ありがとうございました。以上です。

☆フリー質問

記者

河北新報の奥島です。よろしくお願いします。

先ほどご発表のあった中野選手へのスポーツ栄光賞の授与に関してなんですけど、まず、スポーツ賞のほうが大賞と栄光賞と栄誉賞といろんな段階があったかと思うんですけど、栄光賞となった理由とといいますか、というところを教えていただいてもよろしいでしょうか。

知事

はい、詳しいところはですね、担当のほうから、後ほどご説明させていただきますが、やはりこれまでの例と言いますか、こういった活躍の場と言いますか、オリンピック級であったりとかね、いろんな段階がありまして、そういったこれまでの事例というものを参考にしながら、この「スポーツ栄光賞」というのが今回は該当するというふうになったんだと聞いておりますので、そこの非常に具体的なことにつきましては、後ほど担当から説明させていただきたいと思っております。

記者

分かりました。あと、あらためてにはなりますが、中野選手のプレーをご覧になってどのように思われたかというところと、今後への期待のところをお願いいたします。

知事

そうですね。WBCという世界が注目する舞台でですね、本県出身の選手が活躍してくれたというのは、本当に誇らしい気持ちになったというふうに、私自身もなりましたし、県民の皆さんもやはり、日本が優勝するというだけでも日本中喜ぶんですけども、そこに郷土出身の選手がいるといたないとは、心の入れ込みようが違うんじゃないかなと思って、そういう声も県民から直接聞いたところでありましたので、本当にいつもよりも喜びが大きいと言いますか。そして子どもたちにもですね、本当に身近な例として、夢が実現するというようなことに大きく期待に胸を膨らませることができたのではないかなと思ってます。

続々と中野選手に続けというようなですね、子どもたちが現れてくれると喜ばしいなというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。あとすいません、もう1点、話題が変わるんですが、先週の15日に岸田首相の演説会場に爆発物が投げ込まれるという事件がありました。まずこの事件についての受け止めをお願いいたします。

知事

はい。あの時確か私、お昼のニュースで知ったんですけどけれども、大変に驚きましてね、安倍首相の時のあの蛮行がもう本当にこんな短期間のうちに、またですね、繰り返されたのかと思って、本当に驚愕したところであります。ただ、現在の現職の首相がターゲットになったということで、そういうテロ行為を行ったことに対して、ものすごい憤りを感じました。同時にですね、岸田首相がご無事であったと、周りの方々もご無事であったというようなことをお聞きして、ひとまず安堵したということがあります。

このような蛮行がやっぱり、繰り返されてはならないと思いますので、今回のですね、要人警護という面と、またどういふふうにそのような行為を起こすに至ったのかというようなことは、しっかりと検証していただいて、今後やはりそういった蛮行が繰り返されないようにというようなことは、やはり全国的にね、しっかりと肝に銘じて国も地方も一緒になって、それは取り組んでいかなければいけないのではないかなというふうに思います。

記者

ありがとうございます。あと、今のお話の中でも、要人警護のあり方というお話もありましたけど、一方で選挙活動中の警護と有権者との触れ合いというところで、ある意味ジレンマと言いますか、それもあると思うのですが、そこについてはどのようにお考えになりますでしょうか。

知事

そうですね。選挙というのは、本当に民主主義の根幹だと思っていますし、遊説とかでやはり選挙民の方と触れ合うというようなことはね、本当に大事なことだというふうに思っています。

そういうところで、このような卑劣なテロ行為が行われたと。あつてはならないことなんですけれども、実際に起ってしまったということで、やはり要人警護をもっともっと、抜け穴みたいなものはなかったのかとかですね、これからもやはりもっともっと研究して、本当に完璧とまでいけるかどうか分からないけれども、政治家はテロ行為から守られるというような環境は大事ではないかなと思っています。

そして、有権者との触れ合いをどういふふうにな、きちんと守っていけるかというかね、そこもやはり大事なところでありますので、危ないからやめるではなくてですね、やはり

両方、両立できるようにしていくのが大事ではないかというふうに思っています。

要人警護、本当に一言で言うのは簡単ですけど、やはり、左右前後、あと上からというようにいろんなことがあるかと思しますので、しっかりとこれからもですね、研究して対処できるようにしていただきたいというふうに思っております。

ちなみに、安倍首相の襲撃事件があつてからですね、やはり、山形県警もですね、従来よりも要人警護をですね、強化しているというふうに聞いておりますので、これからもしっかりとお願いしたいなというふうに思っています。

記者

ありがとうございました。

記者

すいません、少し話題が変わって、保育の無償化について少し教えてください。去年から今年にかけて、大江町・白鷹町、それから大蔵村、3つの町と村がですね、0歳から2歳についてですけれども、完全無償化へと踏み切ったと、取組みを始めたということなんですけれども、徐々にではあるのですけれども、3歳以上はこれまでに無償化になっていますけれども、0歳から2歳についての無償化がこうやって少しずつではありますが、広がりを見せている。他の村山市ですとか新庄市もですね、県と協力しながらですね、段階的に無償化に向けて動き出しているということだとは思うのですけれども、こういった0歳から2歳の保育の無償化の動き、支援の動きが広がっていることへの受け止めをまずお聞かせ願いたいのと、あと、県としてこれがどこまで広がっていくかはまだ分からない状況ではありますけれども、何か支援の拡充ですとか、知事としてのお考えをお聞かせ願えればと思います。

知事

はい。保育料無償化というか、特に0歳から2歳児までの保育料無償化のお尋ねでありますけれども、今記者さんがおっしゃった、3つの自治体でですね、県と歩調を合わせて無償化に踏み切っていただいているというのは、非常に喜ばしいことだと思っております。子育てする、そして子育てを支援するというだけではなくて、やはりこれ、社会全体で子どもを育てるといふようなね、そういう意識の醸成にもつながっているというふうに思っています。

県としては、半額を無償化というようなことで、あとは、その件についても市町村に委ねているところでありますので、そこは各市町村がしっかりと実施していただいているので、大変ありがたいと思っておりますけれども、できる限りですね、子育て中の方々のお考えなどをちょっと聞いたりしますと、早く無償化になってほしいというふうに切実な声をお聞きしておりますので、できる限り多くの市町村の皆さんから、そういう方向で進め

ていただきたいというふうに思っています。

ただ、これはやはり私は全国で、政府の施策として、政策としてしっかり進めるべきものだというふうに思っていますので、政府に対して提言もしておりますし、次年度の施策提案というのでもまた提案をしていきたいというふうに思っています。

なかなかこれを実施するには、一つの県です、実施するにはやはり財源がネックになりますので、財源確保ができないと、前にどんどん進めていくというようなことはなかなか大変なのでありますけれども、できる限り県としても前に進めていく方向では取り組んでいきたいと思っておりますけれども、市町村とやはり一緒になってですね、「子育てするなら山形県」ということも掲げておりますので、そのうちの一つの施策としてしっかり取り組んでいきたいというふうに思っています。

記者

やはり、子育て支援、子どもを産みそして育てる環境がより充実していけば、もう一人たとえば子ども、家族が増えるということも考えられると思うんですよね。それが将来的には県というか全国的な課題ではありますけれども、地方における人口減少みたいなところの課題への解決にも繋がっていくんじゃないのかなというふうにも考えますが、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

知事

そうですね。今記者さんがおっしゃいましたけれども、やはり、子育てしやすいという、負担感の軽減ということがですね、もう一人、というような意識の醸成というようなことにもつながっていくかと思っておりますので、やはり大きな目で見ると少子化ということの抑制と言いますかね、人口減少対策というようなことにもやはりつながっていくと思っておりますので、これはやはり早く全国的に進めていくのが望ましいというふうに思っています。

記者

読売新聞の藤本と申します。よろしくお願ひします。

私から2点、まず1点目が、昨日も発表がありました、教職員の不祥事が、飲酒運転であつたりとか、そういったところが続いていることについて、知事部局外ではあるのですが、そのことについてまず知事の受止め、または再発防止対策についてお話しただければと思います。

知事

はい。教員の不祥事ということが続いているということについては、大変遺憾に思っているところであります。教育委員会としてもですね、しっかりと対処をしていくというようなことを聞いております。

具体的に有効な手立てというようなこともね、考えながら取り組んでいくということをお願いしておりますので、本当に不祥事を起こさない、起きないような環境づくり、また意識醸成といったことに、本当にこれは不断の努力といたしますか、やはりこのことを常にしっかり考えていくというようなことが大事だと思っておりますので、これからもこれまで以上にですね、しっかりと取り組んでいただきたいと思いますというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。続いて全然話題は変わりますが、最近話題になっているチャットGPTというAIが文章などを考えてくれるというシステムというかソフトがあるのですが、そちらの活用を中央のほうでは検討している省庁があったりなどするのですが、県庁のほうでそういったものを活用する方針があるのか、また、知事ご自身はそういったチャットGPTを使ったことがあるのかみたいなことを伺えたらと思います。

知事

そうですね、デジタル推進課というものが力を入れていますので、できることは何でも前に進めていただきたいと思いますというふうに私は思っています。

私はそれをやったことがないですね。ですけど、どういったものであるのかということやはり理解をしたいと思えますし、リスクリングというのはとても大事なことだと思っていますので、私自身もですね、それをすべて使いこなせるようになるかどうかかわからないんですけど、今、私のデジタル対応力というのをもうちょっと上げていきたいというふうに思っています。

これはやっぱり職員一人ひとりがリスクリングしていくということが県庁全体の力を強くするということになると思えますし、また、人口減少の中で県民の皆さんお一人おひとりがそのリスクリングをするというようなことで県全体の力がやはり強くなるというふうにも思えますので、県としてはできる限りのことをしてですね、デジタル化を進めていきたいというふうに思っています。

記者

日本経済新聞の増刷です。観光の件で1点伺いますけれども、5月の連休を控えて、東京などはもうまさにインバウンドが再びあふれ返っています。東北でも盛岡が世界的に注目されるなど、追い風が吹いている状況だと思うのですが、こういった中で、この時期にあらためてインバウンドを山形県に招き入れるために、県としてこういった方策を講じていくのか、そういった心構えも含めて教えていただければと思います。

知事

はい。本当に、新型コロナウイルス感染症が5月8日から5類に移行するというような大転



換期を目前に控えているところであります。コロナ禍にありましても、ポストコロナを見据えてというようなことで取り組んできたというふうにも思っておりますけれども、まだ本県についてですね、インバウンドでも、担当から聞きますと回復の兆しがもう見えているというふうには聞いております。

ただ、本県の空港を使ってというのはまだちょっとなくて、いろいろと取り組んでいるところだとは思うのですけれども、やはり私自身も動いてですね、外に出ていくというようなことを、インバウンドですよ、そういったこともやはりしっかり取り組んでいかなければいけないなと思っております。

記者

わかりました。一方でですね、観光の現場ではこのコロナ禍で人を減らして、人不足というのはかなり出てきていて、機会損失みたいなのところにもつながっているというような話も聞くのですが、そういったところに対しての県としての認識と、対策などがあれば教えてくださいませんか。

知事

そうですね、宿泊というところもそうかもしれませんし、あと交通業界というところも、例えばタクシーでありますけれども、電話をしてもちょっと今のところすぐはお応えできないというような状況もあるやに聞いているところです。

というのも、やはりコロナ禍にあって、3年も続いてドライバーがね、少なくなっちゃったとか、本当に観光産業は幅広いのですけれども、業界からやはりその人材がですね、流出と言いますか、少なくなっちゃったというようなことで、今記者さんがおっしゃったように、その機会があっても受けることができないという状況があるかと思っています。

ですから観光業界のお話をしっかりと聞きをしながら、どこにどういうふうなことを県がサポートできるのか、そこはしっかりと探って、そしてできることをしっかり取り組んでまいりたいというふうに思っています。

記者

読売新聞の吉田です。

ポストコロナと県議会をテーマに伺いたいのですけれども、県議会改選を迎えて、ちょうど知事のお話にありましたとおり、5月8日から5類移行で大転換ということになりますけれども、この3年、コロナ対応でですね、相当労力を費やされたと思うのですけれども、新たな県議会のメンバーとともに、特にポストコロナでまず力を入れて取り組みたいということと言いますか、令和5年度の県政運営の基本的考えで示されてはおりますけれども、その5月8日を目前にしてですね、特に力を入れて取り組んでいきたいということがあればお聞かせいただけませんかでしょうか。

知事

そうですね、3年という月日は本当に長かったなというふうに思っています。様々な業界で大変苦慮してこられたと思いますし、今でも回復に向けてですね、どんどん進んでいるところと、また、人材が失われてしまってなかなか進めないといった業界もあるのかなというふうに思っています。

やはり経済、地域経済回復というのは、これは非常に重要なことだと思っています。私の4期目の標語がですね、やはり「コロナ克服！山形経済再生!!」でありました。コロナはやはり円滑に5類に移行するんですけど、県全体でやはり円滑に移行なるようにということをしつかり取り組んでいきたいと思ひますし、なんと言つても経済再生、回復、発展というような方向にしつかり持っていきたいと思ひております。

そこで最もやはり今まで深刻な打撃を受け続けてきたのは観光産業であろうというふうに思っています。非常に裾野の広い産業でありますので、打撃を受けた時ものすごい広い範囲で打撃を受けましたし、回復するという時にやはり広い範囲でその恩恵も受けることができるというふうに思ひますので、宿泊であったり、飲食であったり、コロナで打撃を受けた業界に対して、県がやはりできるだけのことを支援し、一緒になって回復していくということが大事なのだろうというふうに思っています。

あと、やはり人の移動が自由になるかと思ひますので、やはり交流ですね、交流事業というようなことに対してですね、どんどんと進んでいけるようなそういったサポートも大事なのかなと思ひています。

この3年で本当にデジタル化も大いに進んでしまいました。地方としてやはり、デジタル田園都市国家構想というのもありますけども、県民の皆さんの幸せのためのデジタル化というような視点をしつかりと持っていてですね、やはりオンラインの医療であったり、買い物難民をどうやって解消していくかとかね、デジタルを方法としてうまく活用して、県民がその地域地域で幸せに生きていけるというような方策にしつかり取り組んでいきたいと思ひています。やはりDXとGX、これはこれからの方向としてしつかり取り組まなければいけないだろうなと思ひています。

本当に欲張りなんですけど、やっぱり食料安全保障といったことも、私は重要なところだと思ひますので、本県としてそこも貢献していきたいというふうにも思ひております。